東教育財団だより

発行所
公益財団法人
東教育財団
大阪市中央区南本町
２丁目２番11号
堺筋本町西尾ビル6階
電話 06（6262）7363
FAX 06（6227）8058
発行責任者 北井 保行

日本においても医療従事者を対象とする新型コロナウイルスワクチンの先行接種が行われましたが、未だコロナ禍の収束を見通すことはできず、経済のみならず社会生活にも大きな影響を与え続けています。

そのため、当財団においても、三月十日(水)に予定していた「公益法人化十周年を祝う会」の開催を見合わせました。

しかし、同日開催予定の令和三年度事業計画及び収支予算を審議する理事会と評議員会は、所要の感染防止措置を講じた上、開催しました。

令和三年度事業計画及び収支予算の概要

東教育財団の令和三年度事業計画及び収支予算は、三月十日開催の理事会の決議を経て、同日引き続き開催された評議員会において承認されたが、その概要は次のとおりである。

令和三年度事業計画

一　助成事業

助成対象事業

①　学校教育事業助成

中央区内の学校教育の充実・発展に寄与し、且つ、当該校園の独自性や特色を持つ事業

②　社会教育・生涯学習事業助成

中央区内の社会教育や生涯学習の充実・発展に寄与する事業

③　地域文化・まちづくり事業助成

中央区内の地域文化や東地区五地域のまちづくりの振興に寄与する事業

助成対象団体

①　学校教育事業助成

中央区内に所在する公立の幼稚園、小学校及び中学校

②　社会教育・生涯学習事業助成

社会教育や生涯学習の活動を行う社会教育団体及び生涯学習団体

③　地域文化・まちづくり事業助成

地域文化・まちづくり活動を行う団体

（理事会会議風景）

助成基準

令和二年度以降の助成基準及び助成額は、令和元年度と同様とする（「資金運用及び助成事業検討委員会」（令和元年九月四日開催）で検討）。

但し、校園周年記念事業及び日本語等指導事業への特別助成は、この限りでない。

二　特定費用準備資金積立事業

①　校園周年記念特別事業助成積立金（平成三〇年度設定）

令和元年度の各校園実施時期調査に基づき修正した計画により令和三年度実施二校園分二五〇、〇〇〇円を取崩す。

②　外国語対応教育環境充実助成積立金（令和元年度設定）

令和二年度の各校園実施状況調査等に基づき修正した計画により令和三年度助成に加算する分五二八、〇〇〇円を取崩す。

③　基本財産運用益減収対策積立資金（令和二年度設定）

大幅な金融緩和政策による債券市場の低金利状況（平成二十八年二

月から「マイナス金利」政策）が続いており、平成二十九年度以降、当財団においても運用収益の減収が生じ、資金運用の弾力化や助成基準の見直し等の対応策を講じてきたが、令和五年度以降は収支不足が見込まれるので、令和二～四年度の収支差額を積み立て、この収支不足を補填することとし、令和二年度の剰余金六、五〇〇、〇〇〇円で特定費用準備資金を設定し、令和三年度に見込まれる剰余金二、六〇〇、〇〇〇円を積み立てる。

（評議員会会議風景）

三　広報啓発事業

①「東教育財団だより」の発行

財団の事業と大阪の文化・歴史を紹介する季刊誌を発行（年四回）する。

②「財団ホームページ」での情報開示

財団ホームページを更新し、財団の事業及び財務について情報開示を行う。

令和三年度収支予算

○　収　入（経常収益計）
　三三、八九五、〇〇〇円
（前年度比　一、二〇〇、〇〇〇円）

○　支　出（経常費用計）
　三二、一九三、〇〇〇円
（前年度比　△一、二八九、〇〇〇円）

（内　訳）

【事業費計】
　二〇、八五〇、〇〇〇円
（前年度比　△一、二三八、〇〇〇円）

【管理費計】
　一〇、三四三、〇〇〇円
（前年度比　△五一、〇〇〇円）

○　差　引（当期経常増減）
　一、七〇二、〇〇〇円（※）

※　校園周年記念特別事業助成積立金取崩額三五〇、〇〇〇円及び外国語対応教育環境充実助成積立金取崩額五二八、〇〇〇円を加え、基本財産運用収益減収対策積立資金積立額二、六〇〇、〇〇〇円を差し引くと、予算上の収支相償は△二〇、〇〇〇円となり適合する。

評議員の補充選任

令和二年六月二六日に死亡退任した評議員の後任が、三月十日開催の評議員会において補充選任された。

◆死亡退任した評議員
　森田　芳充（前北大江連合振興町会長）

◆補充選任された評議員

　鳥居　純一
（北大江連合振興町会長）

助成事業の紹介

令和二年度に助成した事業の具体例を紹介する。

当初計画通り実施できた事業もあるが、コロナ禍の影響で、実施時期や実施方法を変更したもの、事業実施を取り止め所要物品の調達に変更したもの等がある。

学校教育事業助成

「豊かな情操を育む音楽整備事業」
《事業計画を全面変更》

中大江小学校では、整地のため運動場の全面使用ができず、児童の運動量を十分に確保できないので、児童の体力向上を図る校外活動事業を計画していたが、コロナ禍で予定施設の安全利用の見通しが立たなくなったので、計画を全面的に変更し、豊かな情操を育むため、ピアニカの購入など音楽整備事業を行った。

（助成額　三〇万円）

「子ども文楽学習発表」

《実施方法の一部変更》

（学習発表会風景）

国立文楽劇場が校下にある高津小学校では、六年生の「総合的な学習の時間」の教材として文楽に取り組んでいる。

六年生は、技芸員の指導のもとに、三業（太夫・三味線・人形遣い）に分かれて練習。十一月二一日の発表会では、保護者の前で「二人三番叟」「鬼一法眼三略の巻　五条橋の段」を演じ、一～五年生は、コロナ禍を避け、教室でリモート鑑賞した。また、「二人三番叟」の音読（群読）は各学級で取り組んだ。

（助成額　三〇万円）

地域文化事業助成

「みんなのクリスマス」

《実施手法の一部変更》

中大江公園愛護会では、地域のクリスマス事業として、中大江公園を王冠に見立てたイルミネーションを設置したが、コロナ禍の影響で「みんなのクリスマス」の当日に予定していたペットボトル灯籠やお菓子の配布、昔遊びやクリスマスコンサート等の参加型イベントは中止し、昨年までの当該事業の様子をＹｏｕＴｕｂｅ配信した。

（助成額　一〇万円）

助成事業の中止

令和二年度に助成した事業で、新型コロナ感染予防措置（不要不急の外出抑制、三密回避要請、イベント等の中止要請、各種施設の閉鎖等）により、実施を取り止め、助成金を辞退又は返還されたものを紹介する。

地域文化事業助成

「令和二年度中央区成人の日記念のつどい」

一月十一日（月・祝）、ヴィアーレ大阪で開催を予定していた「中央区成人の日記念のつどい」は、大阪市の方針により中止。

（返還額　一五万円）

地域まちづくり事業助成

「中大江校下盆踊り大会」

八月四日・五日の両日、中大江公園で開催を予定していた「中大江校下盆踊り大会」は、コロナ禍で中止。

（返還額　一五万円）

「たまつくり盆踊り大会」

「玉造いきいき交流事業」

「玉造敬老おたのしみ会」

玉造地域の右の三つの「まちづくり事業」は、コロナ禍で中止。

（返還額計　四〇万円）

大阪の食文化
ー東西比較ー

井ものは、ご飯の上におかずをのせ、立ったままでもかき込むことができるので、イラチな大阪人にピッタリで大阪生まれと思いきや、実は東京が発祥の地である。

（汁掛けタイプの深川飯）

井もののルーツは、アサリのむき身とネギなどの野菜を煮込んだ汁物をご飯にかけて丼鉢で食べる「深川飯」（「深川丼」・「アサリ飯」と呼ぶこともある）で、江戸の漁師がアサリの味噌汁をご飯にぶっかけて食べたのが始まりといわれている。

（炊き込みタイプの深川飯）

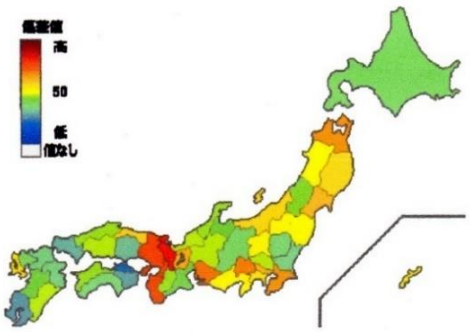
井ものの代表といえば、天丼とカツ丼であるが、これらも東京生まれであり、大阪で「まむし」と呼ぶ鰻重（鰻丼）も東京が生んだものである。

井もので大阪生まれであるのは「親子丼」で、明治三六（一九〇三）年大阪で開催された第五回内国勧業博覧会の時に、大阪の料亭『とり菊』の店主が考案したとされ、大正生まれのカツ丼より古いという。鶏と卵で東京なら「とりたま丼」となるところを、大阪らしくひとひねりして親子丼とネーミングしたのである。これをヒントにした「他人丼」も勿論大阪発である。東京ならさしずめ「牛たま丼」か「牛とじ丼」と名付けられたであろう。

「うなぎ丼」の東西比較は、土用の丑の頃になると、巷間よく話題となるので、ここでは取り上げない。

生粋の大阪人を自負する筆者ではあるが、貝に目がなく、深川飯が好きである。現役時代、午後二時から東京で開催される会議に出席する時、一人で摂る昼食は、東京駅八重洲口のカウンター席だけの井もの屋の深川飯であった。現役引退後、無性に深川飯が食べたくなり、東京・深川の専門店に出かけたこともある。

総務省の家計調査（平成二五年版）によると、全国から抽出した九千世帯から単身世帯を除いた二人以上世帯の消費支出に占める食料費の割合（エンゲル係数）は、京都府二八・七五％、和歌山県二八・〇七％、兵庫県二八・〇七％、大阪府二八・〇四％で、全国平均の二五・六〇％を大きく上回り、近畿二府二県が上位四位を独占している。この二府二県以外でも、滋賀県二六・七三％と関西の世帯はエンゲル係数が高い（ただし、奈良県は二五・六〇％で全国平均値）。



昔はエンゲル係数が高いと貧しいと解釈されたが、今はそんな時代ではない。現に近畿二府四県は全国的にみて所得水準は高い。要するに関西人は食べることに贅沢なのである。

（槇野　勝・記）

このコラム欄への投稿を募ります。
テーマは「おおさか」です。
一五〇〇字程度でお願いいたします。